

書記言語における副詞“在”の意味分析

A Semantic Analysis of Adverb “zai (在)” in Written Language

青 木 萌

0 はじめに

青木 (2015b) は、副詞“在”に対し、これまでの多くの研究者のように[進行]と解釈するよりも、[複数の出来事存在]と解釈する方がより妥当であることを主張した。注目すべき点は、当論文では副詞“在”が生起する文を以下の五つのタイプに分けて考察を行ったことである。

- ① 複数の時間概念から [複数の出来事存在] を明確に判断できる例
- ② 複数の場所概念から [複数の出来事存在] を明確に判断できる例
- ③ 複数の動作主から [複数の出来事存在] を明確に判断できる例
- ④ 複数の動作行為の対象から [複数の出来事存在] を明確に判断できる例
- ⑤ 他の文脈から [複数の出来事存在] を明確に判断できる例

これらは副詞“在”が表す [複数の出来事存在] の意の理解に最も貢献する成分の特徴に基づいて区分したものである。留意されたい点は、“在”が示す [複数の出来事存在] の意は、他の成分や前後の文脈がなくても、動詞に内在する [持続] の意味特徴を保持することで成立しえるということだが、当論文では、動詞の [持続] の意味特徴に加えて、他の成分や前後の文脈にも注目し、副詞“在”は [複数の出来事存在] の意を表すことを主張した。この青木 (2015b) で挙げた用例の中の「他の成分」、つまり、[複数の出来事存在] を明確に判断するための最も決定的な成分は“时时刻刻”、“无时无刻”、“除了上课, 其他时间”、“网上”、“书里的每个字”、“北平”、“整个世界”、“这一家三口”、“我们全班同学”、“好几个人”、“现在公司所有的事情”、“这家里的活儿”などであった。その内、テレビドラマからの用例が九例、小説からの用例が三例であり、映像言語資料が主となっている。そこで本稿では、青木 (2015b) の論考を基に、書記言語の観点、即ち小説からの用例を考察し、副詞“在”を [進行] と解釈するよりも [複数の出来事存在] と解釈することの妥当性を改めて証明する。

上述の如く、青木 (2015b) では副詞“在”が生起する文を五つのタイプに分けて考察したが、本研究ではさらに「様態表現から [複数の出来事存在] を明確に判断できる例」を加えた六つのタイプに対して考察を行い、副詞“在”が表す [複数の出来事存在] の意が如何にして成立するのかを詳細に論じる。従って、次のような順番で論じることにする。

- 第一章 複数の時間概念から [複数の出来事存在] を明確に判断できる例
- 第二章 複数の場所概念から [複数の出来事存在] を明確に判断できる例
- 第三章 複数の動作主から [複数の出来事存在] を明確に判断できる例
- 第四章 複数の動作行為の対象から [複数の出来事存在] を明確に判断できる例
- 第五章 他の文脈から [複数の出来事存在] を明確に判断できる例
- 第六章 様態表現から [複数の出来事存在] を明確に判断できる例

次章では複数の時間概念から〔複数の出来事存在〕を明確に判断できる例について検討する。

1 複数の時間概念から〔複数の出来事存在〕を明確に判断できる例

本章では八つの例を用いて論じる。なお、本稿の中国語に対する日本語訳と傍線、波線は全て筆者による。傍線は、考察対象となる副詞“在”であることを示し、波線を引いた箇所は、“在”の〔複数の出来事存在〕の意を明確にさせるために最も重要な成分であることを表している。

(1) 太奶奶有个热水袋，不知道是哪年买的，但一直舍不得丢，始终在用。(艾米《小情敌》20頁)

“始终在用”(ずっと使っている)の箇所に注目されたい。ここでの“在”は〔複数の出来事存在〕の意を表わしている。なぜなら、第一に、動詞の“用”は、論理的な観点からいうと、〔持続〕の意味特徴を有し、かつ、“始终在用”の中には、この“用”の〔持続〕を〔終息〕させる成分が生起していないので、“用”が際限なく〔持続〕することになる。故に、〔複数の出来事存在〕の意の成立が可能となるからである。

第二としては、“始终在用”に生起する“始终”に注目する必要がある。即ち、“始终”が生起していることによって、“用”という出来事が幾度となく行われていることが判然とするので、これを〔複数の出来事存在〕として捉えることができる。

次は(2)の例について検討する。ここでは“整个下午”がポイントとなる。

(2) 整个下午他都在看一本受到广泛吹捧的小说。起初是漫无用心，看到三分之一处，他的全部才智便被激活了焕发了，眼光也因之变得锐利。(王朔《我是你爸爸》(王朔文集)22頁)

“整个下午他都在看一本受到广泛吹捧的小说”(午後の間、彼は至る所で素晴らしいと謳われている小説を見ている)において、“在”が示す〔複数の出来事存在〕の意は、以下の二点から明白となる。第一に、持続動詞の“看”が〔複数の出来事存在〕の成立を補佐しているということである。しかしながら、ここでひとつの疑問が浮かぶ。それは即ち、この文における“看”の〔持続〕は、“一本受到广泛吹捧的小说”によって必ず〔終息〕を迎えてしまう、と考えられることである。つまり、これは、一見“在”の〔複数の出来事存在〕の成立と矛盾するように思える。が、この“一本受到广泛吹捧的小说”を読み終えるまでの間は、“看”という出来事が変化することなく〔持続〕する、と見なすことで、“在”の〔複数の出来事存在〕の意を表現することができる、と理解すべきである。

この例において“在”が〔複数の出来事存在〕の意を表す第二の理由は、“整个下午”の生起にある。要するに、午後の間において“看”という出来事が不変的に存在していると解釈できるため、〔複数の出来事存在〕の意を得ることができる。また、この文には副詞の“都”が生起している点からいっても、“在”が表す意味を〔複数の出来事存在〕と見なすのは妥当であるといえる⁽¹⁾。

次は(3)の例を見られたい。

(3) 只要爸爸用凌厉的眼光对她一转，她就要短掉半截。她不再敢惹我了，而我却时时在思索如何报复她。我恨她，比恨任何一个人厉害！(琼瑶《烟雨濛濛》39頁)

“我却时时在思索如何报复她”(私は如何にして彼女に報復するかをしょっちゅう考えている)において、“在”は〔複数の出来事存在〕の意を表わすと考えるが、これを明確に理解するには、まず、“思索”が示す〔持続〕の意味特徴に注目する必要がある。つまり、“思索”は論理的な角度から言うと、〔持続〕の意味特徴を有しているが、“我却时时在思索如何报复她”では、この“思索”の〔持続〕が他の成分によって〔終息〕しないため、際限なく〔持続〕を保持する。従って、“思索”が不変的に〔持続〕を保つことで、〔複数の出来事存在〕の意を表現する可能性が生じたと理解できる。

そして最も注目に値するのは、“时时”の生起である。なぜなら、“时时”の生起により、“我思索如何报复她”という出来事が幾度となく生じていることを確かに理解できるため、これを〔複数の出来事

の存在]として捉えることが可能となるからである。

さて、次の用例では、“仍”が[複数の出来事存在]の意を明確に理解するための鍵となる。

(4) “我至今仍在怀疑，当年我的话，是不是正好给了你远走高飞的理由。”（顾漫《何以笙箫默》44頁）

ここでは“我至今仍在怀疑”（私は今に至っても依然として疑っている）において“在”が何故[複数の出来事存在]の意を表わすのかを考える。初めに注目すべき点は、持続動詞の“怀疑”が他の成分によって[終息]することなく、[持続]の意味特徴を保持し続けていることである。このように解釈することで、“在”の[複数の出来事存在]の意を生み出す基礎が形成された、といった演繹的な推論を行うことができる。

次に注目すべき点は、“仍”が生起していることであり、この成分の生起によって、“我怀疑”という出来事が(4)の時点よりも前に発生していたことを容易に連想できるため、論理的な視点から考えると、この“我怀疑”という出来事が複数存在していると解することができる。

次に挙げる(5)では“又”が重要な役割を果たしている。

(5) “奶奶，太奶奶又在调皮！”（艾米《小情敌》79頁）

（おばあちゃん、曾おばあちゃんがまた悪巧みをしているよ！）

“太奶奶又在调皮”において、“在”が[複数の出来事存在]の意を表わすと見なしえるのは、まず、“调皮”に内在する[持続]の意味特徴に着目する必要がある。つまり、この文における“调皮”は、論理的な視点を以って見ると、[持続]の意味特徴を有しているが、この[持続]が他の成分によって[終息]を迎える可能性を“太奶奶又在调皮”の中から見出すことができない。そのため、“调皮”が限りなく[持続]することになるので、[複数の出来事存在]という意を連想するに到りえる。

そして、“太奶奶又在调皮”における“又”の生起が[複数の出来事存在]の成立に大きく貢献している。要するに、“又”の生起により、“太奶奶调皮”という出来事が、(5)の発話時間より前に行われていることが保証されるので、“太奶奶调皮”という出来事が複数存在していると見なすことができる。

今度は(6)の“默笙后来总在想”における“在”について考えてみよう。ここでは“总”によって[複数の出来事存在]の意をはっきりと理解することができる。

(6) 默笙后来总在想，这个温婉如水又清丽如诗的女孩子那时是用怎样一种心情听她所爱的男子向别人介绍“这是我妹妹”的？当初她皮厚兮兮对她自我介绍说“我是你哥哥的女朋友”而以琛没有反驳时，她又是怎样的一种痛彻心扉？（顾漫《何以笙箫默》67頁）

“默笙后来总在想”（默笙はその後いつも考えている）の“在”は[複数の出来事存在]の意を表わすと見なすが、その理由は主として以下の二点である。一つは、“总”の生起によって“在”の[複数の出来事存在]の意をはっきりと理解することができるからである。つまり、“总”が生起したということは、“想”という心理活動を何度も行っていることが保証されるが故、これを[複数の出来事存在]として捉えることができる。

いま一つの理由は、この文における“想”は[持続]の意味特徴を有しているが、この[持続]が文中の他の成分によって[終息]しない、ということである。即ち、“想”の[持続]の意味特徴が“在”の[複数の出来事存在]の意の成立に貢献しているのである。

次は(7)の“以琛已经在吃早饭”における“在”について論じる。

(7) 换好衣服出来，以琛已经在吃早饭。默笙迟疑了一下，在他旁边的位置坐下，看着桌上的清粥小菜，和以琛一起吃早餐……（顾漫《何以笙箫默》98頁-99頁）

“以琛已经在吃早饭”（以琛はすでに朝ご飯を食べている）では、如何にして“在”が[複数の出来事存在]の意を表していることを明確にすることができるだろうか。それは、以下の二点を挙げる必要がある。まず、動詞の“吃”が[持続]の意味特徴を保持しているという点である。つまり、論理的な

観点から言うと、ここでの“吃”は〔持続〕の意味特徴を有しており、かつ、“以琛已经在吃早饭”において、この“吃”の〔持続〕は、他の成分によって〔終息〕を迎えることがないため、永久に〔持続〕すると考えられる。従って、〔複数の出来事存在〕の成立を生む基盤が得られる。

さて、今度は“以琛已经在吃早饭”の中の“已经”について述べる必要がある。というのは、“已经”の生起により、“以琛吃早饭”という出来事が、参照時間（reference time）よりも以前に行われていることが明白となるからである。即ち、この例における“以琛吃早饭”という出来事に対する参照時間は“换好衣服出来”（服を着替えてから出てきた）であるため、この“换好衣服出来”という参照時間から観察すると、“以琛吃早饭”という出来事は既に行われている、と判断できる。そして、この既に行われている“以琛吃早饭”という出来事は変化することなく〔持続〕すると見なしえるので、〔複数の出来事存在〕の意を得ることができる。

以上の(7)の考察を基に、次は(8)の例について考えてみよう。

(8) 我和何书桓已经到了“一日不见，如隔三秋”的地步了，我为我自己感情的强烈和狂热而吃惊。为此，我也必须重新衡量何书桓出国的事，他自己也很犹豫，虽然一切都在按部就班地进行，他已在申请奖学金，并准备留学考试。（琼瑶《烟雨濛濛》101頁）

“他已在申请奖学金”（彼は既に奨学金を申請している）中の“在”が表す〔複数の出来事存在〕の意は、“已经”の生起と文中の動詞“申请”に内在する〔持続〕の意味特徴によって明らかとなる。要するに、“已经”が生起したということは、“他申请奖学金”という出来事が、参照時間よりも以前に始まっている、ということが確定し、同時に、“他已在申请奖学金”には、持続動詞の“申请”の〔持続〕を〔終息〕させる成分が生起せず、論理上、限度なくその〔持続〕を保持するが故、“他申请奖学金”という出来事が複数存在している、と見なすことができる。

次章では複数の場所概念によって“在”の〔複数の出来事存在〕の意を明確に判断できる例を挙げることにしよう。

2 複数の場所概念から〔複数の出来事存在〕を明確に判断できる例

用例は全部で三つある。まず(9)の“空中与地上都在颤抖”（空と地上は揺れている）の“在”について考える。

(9) “敌人的坦克车，在街上示威！”老三的嘴角上有点为阻拦嘴唇颤动的惨笑。老大又听了听。“对！坦克车！ 辆数很多！ 哼！”他咬住了嘴唇。坦克车的声音更大了，空中与地上都在颤抖。（老舍《四世同堂》35頁-36頁）

“空中与地上都在颤抖”では“空中与地上”に含まれる複数の場所概念によって“在”が表す〔複数の出来事存在〕の意をはっきりと捉えることができる。即ち、“空中”（空）と“地上”（地上）のいずれにおいても“颤抖”が不変的に存在しているのである。

また、これと共に、動詞の“颤抖”についても留意する必要がある。というのは、この文において、“颤抖”の〔持続〕の意味特徴はその他の成分によって〔終息〕する可能性がないため、“颤抖”という出来事が際限なく存在することができるからである。つまり、“颤抖”が有する〔持続〕の意味特徴が“在”の〔複数の出来事存在〕の意を生み出す基盤となっている。

次の(10)では“肩胛和全身都在痛苦地颤抖”（肩や全身が苦しげに震えている）の部分に注目されたい。

(10) 德子媳妇陷入绝境，进退两难，抬起泪汪汪的两眼，望着孙桂贞，只好谨慎地选择一个笼统的字眼儿，说：“他们后来把我卖到……卖到火坑里去啦！”说罢，哇的一声大哭起来，用湿漉漉的手绢擦着鼻涕眼泪，肩胛和全身都在痛苦地颤抖！（霍达《红尘》92頁）

“肩胛和全身都在痛苦地颤抖”における動詞の“颤抖”は持続動詞であり、かつ、この文には、この

“颤抖”の[持続]を[終息]に導く成分が生起していないと理解できる。これが“在”の[複数の出来事存在]の意を成立させるための大切な前提条件となる。

そして、最も注目されたいのは、この文では“肩胛和全身”が生起しているため、“颤抖”が複数存在していると判断できることである。つまり、“肩胛”において“颤抖”という出来事が[持続]し、同時に、“全身”においても“颤抖”という出来事が[持続]しているのである。

今度の(11)の“他全身都在哆嗦”は、“全身”に複数の場所概念が包摂されていることにより[複数の出来事存在]の意をはっきりと捉えることができる例である。

- (11) 安心想解释，她想该和毛杰好好谈谈，哪怕自己认错，求他原谅。她搬过椅子，想拉他坐下来，还未开口，毛杰突然粗暴地把她的手甩开了，他全身都在哆嗦，声音也控制不住地哆嗦：“我还以为……你在乎我！”（海岩《玉观音》84頁）

“他全身都在哆嗦”（彼の全身が震えている）の“全身”に注目されたい。この“全身”の生起により、“哆嗦”が体の至る所で生じていることを連想できるので、“他哆嗦”という出来事が複数存在していると、推論することができる。このような概念が成立しえるのも、“他全身都在哆嗦”における動詞の“哆嗦”が[持続]の意味特徴を保持しているからである。つまり、この文での“哆嗦”は、永遠に[終息]せず、その[持続]を保っているのである。

さて、次の第三章で挙げる例では複数の動作主に留意されたい。

3 複数の動作主から[複数の出来事存在]を明確に判断できる例

本章では、動作主に複数の概念が内在されていることで[複数の出来事存在]の意味を明瞭に把握できる例を取り扱う。全部で七つの例がある。まず(12)の例について考えてみよう。

- (12) 我上岛后就像走进了一幅画：水淋淋的街道，水淋淋的树；每条街都是狭窄，弯曲，起伏不定，没有车辆，所有人都在步行；街两旁一家家凹进去，完全洞开的商店很冷清，每个柜台后面站着一个个苗条白晰，毫不动人的文静姑娘，像一个平庸母亲的众多女儿。（王朔《橡皮人》（王朔文集〈我是“狼”〉）129頁）

(12)では“所有人都在步行”（すべての人が歩いている）における“在”が[複数の出来事存在]の意を示していることを証明する。注目すべき箇所は、第一に、動詞“步行”に内在する意味特徴である。要するに、“所有人都在步行”では、持続動詞の“步行”の[持続]を[終息]させる成分が見当たらないため、この“步行”が[持続]を保ち、[終息]しないことで、[複数の出来事存在]といった表現へと進むことが可能となる。

注目すべき箇所の第二としては、“所有人”が生起していることである。これによって、“步行”という出来事が複数存在していることが分かる。これは副詞の“都”が生起している点からも納得できる。

以下の(13)で最も留意されたいのは“人们在大声说话”（人々は大声で話をしている）の部分の“人们”である。

- (13) 那是人们在大声说话，远远近近全城的男人女人都在一齐大声嚷嚷。（王朔《看上去很美》（王朔文集）171頁）

“人们在大声说话”における“在”が[複数の出来事存在]の意を表していることを確実に証明するには、まず、持続動詞の“说”が[持続]の意味特徴を保持し、かつ、この意味特徴が他の成分によって[終息]しない、ということを提示する必要がある。これにより、[複数の出来事存在]という意味が成立するための前提条件が整ったことになる。

次に、“那时人们在大声说话”における“人们”に着目すると、“们”は複数の意を示す接尾辞であるが故、“说话”という行為は、複数の“人”によって行われていることが分かるので、この文での“在”

は「複数の出来事」の存在」の意を表していると考えられる。

もう一つ似たような例を挙げよう。

(14) 中午我们在绿如墨玉的鱼塘岸边垂钓，四周田野飘来浓郁的粪香。不远处的一排猪圈，猪们在吃饭，吱吱呀呀拱叫不已。(王朔《王朔自选集》(《过把瘾就死》) 125 頁)

(14)の“猪们在吃饭”(豚さんたちが食事をとっている)における“在”が「複数の出来事」の存在」の意を表現していることを判然とさせるためには、まず、動詞の“吃”に内在する「持続」の意味特徴が「終息」しないと見なす必要がある。つまり、“猪们在吃饭”には“吃”の「持続」を終わらせる成分が存在しないのである。

最も注目し値することは、複数の意を示す接尾辞の“们”が“猪”に付加していることにより、“猪吃饭”という出来事が複数存在している、と推論できることであり、それが故、この文における“在”が「複数の出来事」の存在」の意を示していることを明確に理解することができる。

次の(15)では“不少人在注意我们了”(多くの人が私たちに注目している)における“在”が何故「複数の出来事」の存在」の意を表現できるのかを考えてみたい。

(15) “依萍，你一定要听我！”他的手抓紧了我的胳膊，由于我挣扎，他就用全力来制服我，街上行人虽然不多，但已有不少人在注意我们了。(琼瑶《烟雨濛濛》 76 頁)

“不少人在注意我们了”において、“在”が「複数の出来事」の存在」の意を表わしていると判断しえる決定的な理由は、“不少人”が生起していることである。つまり、これにより“不少人注意我们”という出来事が複数存在していると連想しえる。

もう一つの理由としては、“不少人在注意我们了”中の動詞“注意”は「持続」の意味特徴を有しているが、この意味特徴が、文中の他の成分によって「終息」する可能性がない、という点である。つまり、“注意”は、この文において、尽きることなく「持続」を維持することで、“在”の「複数の出来事」の存在」の意が成立するための前提条件を満たしていると考えられる。

次は(16)の例について考えてみよう。

(16) 娟子一进门，正赶上全家人在吃晚饭，就回头瞅了瞅随她进来的那个男的，向孙桂贞介绍说：“妈，这就是许炳炎”。(霍达《红尘》 47 頁)

ここでは“正赶上全家人在吃晚饭”(ちょうど一家が晩御飯を食べている時間)にぶつかった)の中の“在”が「複数の出来事」の存在」の意であることを証明したい。初めに注目されたいのは、動詞“吃”に備わる「持続」の意味特徴が他の成分によって「終息」せず、際限なく「持続」する、ということである。これが“在”が示す「複数の出来事」の存在」の意の成立が可能となる原因の一つとなる。

次に注目すべきは、“全家人”である。この成分が生起していることで、複数の動作主が“吃晚饭”を行っていることが容易に想像しえるので、これを「複数の出来事」の存在」と見なし、“正赶上全家人在吃晚饭”の“在”が表す「複数の出来事」の存在」の意を明確に理解することができる。

次は“办公室里的同事”に複数の概念が含まれていると見なすことで、“在”の「複数の出来事」の存在」の意味が明確となる例を見られたい。

(17) 那天我的情绪也不高。上班时办公室里的同事都在议论，说我们单位原来一个辞职不干的人发了财，买了房子买了车，我们单位有的过去跟他关系不错的蒙邀去他家玩，回来说他家搞得和宾馆似的。由此说开来，大家历数自己认识的人中谁出国了谁成“老板”了。聊了一上午，聊得全办公室的人又妒又恨，醋劲十足，造成了一个印象：似乎敢在外边混的人都混出了头，而这些人过去都不在我等话下。(王朔《王朔自选集》(《过把瘾就死》) 127 頁)

(17)では“上班时办公室里的同事都在议论”(仕事の時に仕事場の同僚たちはみな議論している)が問題となる箇所だが、最初に留意されたいのは、この中の持続動詞“议论”が、他の成分によって「終息」することがない、という点である。要するに、“议论”はこの文において、尽きることなく「持続」

を保持し、[複数の出来事存在] といった意を生む基礎を作っていると見なしえる。

次に留意されたいのは、ここでの“办公室的同事”は、同僚が一人以上存在し、複数であると理解できるので、“议论”という[持続]の出来事を[複数の出来事存在]として捉えられる、ということであり、これは“上班时办公室里的同事都在议论”において、副詞の“都”が生起し、かつ、三行目からの“聊得全办公室的人又妒又恨”(話した結果、仕事場にいる人すべてが妬み、恨んだ)において、“全办公室的人”が生起している点から言っても妥当な解釈であるといえる。

もう一つ、複数の動作主から[複数の出来事存在]の意を明確に判断できる例を挙げたい。

(18) 堂屋挤满黑黑的人头，吞饭，吞汤的声音，无纪律地在响。(萧红《萧红全集》(上) 47頁)

“吞饭，吞汤的声音，无纪律地在响”(飯や汁ものを食する音が不規則に響いている)における“在”の意味を理解するにあたり、持続動詞の“响”と主語の“吞饭，吞汤的声音”が重要な役割を果たしている。つまり、第一に、この文には、持続動詞“响”の[持続]を止める成分が生起していないが故、この“响”は際限なく[持続]すると理解できる。

第二に、“吞饭，吞汤的声音”は、自明のとおり、二つの音があることを意味し、それは即ち、飯を食べる音と汁物を啜る音であるため、“响”という出来事が幾つも存在すると見なしうる。これは、“吞饭，吞汤的声音，无纪律地在响”の前にある“堂屋挤满黑黑的人头”(中央の部屋には、黒々とした人の頭でぎっしりしている)という表現を見るとより判然とする。多くの人が食事をとり、それに伴い、複数の音が発せられているのである。

また、“无纪律地在响”には“无纪律地”という様態表現が生起し、これが“响”という出来事が[持続]していることを保証しており、この点からも“在”が[複数の出来事存在]という意味を表していることが推論できる。というのは、“无纪律地”というのは、自明の如く、「不規則に」という意であり、これは論理的に複数の“响”を保証するからである。なお、このような様態表現が[複数の出来事存在]の意を明晰にさせる例は第六章で多くの例を挙げて考察する。

さて、次の第四章では動作の対象が複数に及ぶことで[複数の出来事存在]の意を導くことができる例について考えてみよう。

4 複数の動作行為の対象から [複数の出来事存在] を明確に判断できる例

本章では、動作の対象が複数に及ぶことで[複数の出来事存在]の意が明確となる例について検討する。五つの例を挙げる。一つ目の例では“他一生所做的许多错事”の部分が[複数の出来事存在]を理解するための鍵となる。

(19) 我心中突然莫名其妙地涌出一股难言的情绪，感到爸爸的语气里充满了苍凉，难道他在懊悔他一生所做的许多错事？(琼瑶《烟雨濛濛》87頁)

“他在懊悔他一生所做的许多错事”(彼は自分がこれまで行った多くの過ちを後悔している)における“在”が[複数の出来事存在]の意味を表わしていることを明確に理解するには、まず、“懊悔”に内在する[持続]の意味特徴について理解する必要がある。つまり、“他在懊悔他一生所做的许多错事”には、持続動詞の“懊悔”を[終息]させる成分が他に見当たらないので、この“懊悔”に内在する[持続]の意味特徴が[複数の出来事存在]の意を表現するための基盤になっていると考えられる。

また、持続動詞“懊悔”の対象である“他一生所做的许多错事”は「彼がこれまで行った多くの過ち」の意であるが故、その過ちが複数であることは間違いない。従って、“懊悔”という心理活動は一定の時間を要することとなり、その間は、“懊悔”が変化することなく[持続]するので、[複数の出来事存在]の意として捉えることができる。

次の(20)では“仿佛在说”における“在”が如何なる根拠により[複数の出来事存在]の意を表現し

えるのかを詳述しよう。

(20) 每当我听到惊险之处，就会转过脸来望着几个听众，小脑袋一点一点的，脸上是夸张的表情，仿佛在说：“听见没有？不是我吓唬你，事情就是这样的，你怕不怕？”（艾米《小情敌》14頁-15頁）（恐ろしい所まで聞くたびに、振り向いて数名の聴衆に目をやった。小さな頭をちょこちょこことやり、顔つきは大げさである。それはまるで「分かったかい、驚かしているのではないよ、事は正にこのような感じなんだ、怖いかい」と言っているかのようである。）

“仿佛在说”における“在”が〔複数の出来事存在〕の意を表わすのを明確に理解するには、第一に、持続動詞“说”に内在する〔持続〕の意味特徴が他の成分に影響されず、そのまま〔持続〕を保持している、という点に着目する必要がある。よって、この“说”が保つ〔持続〕により、ここでの“在”は〔複数の出来事存在〕の意を表現することが可能となる、と解しえる。

第二に注目すべき点は、“说”の対象、即ち、“仿佛在说”の後方にある“听见没有？不是我吓唬你，事情就是这样的，你怕不怕？”という表現である。当然ながら、これを話すには、一定の時間を必要とする。そのため、“听见没有？不是我吓唬你，事情就是这样的，你怕不怕？”を発話している間は、どの時点においても“说”という出来事が行われていると見なし、〔複数の出来事存在〕の意を表現することが可能になる。

次の例でも目的語が複数の概念を有しているが故、〔複数の出来事存在〕の意を明確に判断できる。考察の対象となるのは“我在憧憬自己的单身生活”の部分である。

(21) 我笑：“别自作多情，我在憧憬自己的单身生活。”（介末《裸婚》78頁）

（私は笑って、「思い込みするな、私は自分の独身生活に憧れているんだ」といった。）

初めに留意すべきは、〔持続〕の意味特徴を保持する“憧憬”である。つまり、“憧憬”が、文中の他の成分の影響を受けて〔終息〕せず、その〔持続〕を続けていることにより、〔複数の出来事存在〕の意の成立の土台になっていると考える。そして、“憧憬”という心理活動の対象である“自己的单身生活”は、「自分の独身生活」の意であるが故、様々な出来事を連想することができる。そのため、様々な独身生活を連想している間は“我憧憬自己的单身生活”という出来事が変わることなく存在し続けていると解しえる。従って、〔複数の出来事存在〕の意へと導くことができる。

次の例の“她在写”における“在”も〔複数の出来事存在〕の意を示していると見ますが、ここでは“一笔、两笔、三笔”の部分に大きなヒントが隠されている。

(22) “你知不知道你这样意味着什么？”怎么会不知道呢？默笙垂下眸子，举起手指在他心口划字。
一笔、两笔、三笔……她在写……（顾漫《何以笙箫默》117頁）

二行目の“她在写”（彼女が書いている）を見られたい。この中の“在”が示す〔複数の出来事存在〕の意は如何にして明確となるだろうか。以下の二点に注目する必要がある。一つは、“写”がこの文において〔持続〕の意味特徴を保持している点にある。要するに、論理上、“她在写”における“写”は〔終息〕せず、際限なく〔持続〕するのである。

いま一つは、“她在写”の前に生起する“一笔、两笔、三笔”（一画、二画、三画）に注目すると、これらによって“她在写”という出来事が〔持続〕していることがより明白となる。つまり、“一笔”、“两笔”、“三笔”のいずれにおいても“她写”という出来事が変化することなく〔持続〕していると見なしえるため、これを〔複数の出来事存在〕の意として理解することができる。

以下の例についても検討してみよう。

(23) 电视播音员在报告着大风降温消息，声音瓮声瓮气地在屋里回荡，由于电视的彩色失调，播音员的脸显得赭红，胸前的领带鲜艳得刺眼。（王朔《我是你爸爸》（王朔文集）206頁）

一行目の“电视播音员在报告着大风降温消息”（テレビのアナウンサーは強風と気温低下のニュースを報道している）の箇所を見られたい。“在”の〔複数の出来事存在〕の意を理解する上で重要な

は、まず、持続動詞“報告”が[持続]の意味特徴を堅持していることである。つまり、“电视播音员在报告着大风降温消息”の文には他の成分により“報告”の[持続]が[終息]しないのである。しかも、“報告”の後には[持続]の意を明示する“着”が生起しているため、この文で“報告”が[持続]していることがより判然とする。

最も重要な点は、“報告着”という行為の対象である“大风降温消息”は「強風」と「気温の低下」という二つのニュースであるが故、この内容を報道するには、一定の時間を必要とする、ということである。それは(23)の前の文脈を見ると一目瞭然となる。つまり、

(23) “……从蒙古人民共和国南下的一股较强的冷空气，其前锋今天中午已经到达了我国的内蒙古、东北和华北一带，预计明后两天将影响我国大部分地区。气温将明显下降，并有五、六级大风。冷空气前锋过后，黄河流域、淮河以北气温将下降十至十二摄氏度；长江流域、淮河以南气温将下降五至八摄氏度。请各有关单位做好防寒防冻的准备……”（王说《我是你爸爸》（王朔文集）206頁）（モンゴル人民共和国から南下した強い寒波は、その前触れが今日の午後、すでに内モンゴル、東北、および華北一帯に到り、明日あさってにかけて中国の多くの地域に影響するでしょう。気温は大きく下がり、五、六級の大風にみまわれるでしょう。この寒波の前触れが通過すると、黄河流域、淮河より北の気温は十度から十二度ほど低下するでしょう。長江流域、淮河より南の気温は五度から八度さがるでしょう。各地で防寒の対策を行って下さい。）

である。以上により、このニュースを報道している間は、“电视播音员报告着”という出来事が変化することなく存在し続けている、と考えられるので、“电视播音员在报告着大风降温消息”における“在”は[複数の出来事存在]の意を示すと解しえる。

次章では、主として他の文脈に留意することで“在”の[複数の出来事存在]の意が判然とする例を挙げることにする。用例は三つある。

5 他の文脈から[複数の出来事存在]を明確に判断できる例

(24) 片刻的安静，没人说话，只听见低低的啜泣声。孙桂贞赶紧循着哭声看过去，是德子媳妇在哭。（霍达《红尘》81頁）

この例では“是德子媳妇在哭”（徳子の嫁が泣いている）に“在”が生起している。最初に確認しておきたいのは、持続動詞の“哭”が[終息]することなく[持続]を維持することである。これによって[複数の出来事存在]の意を生む条件が与えられることとなる。

そして、この文を考察する上で最も重要なことは、“是德子媳妇在哭”の前にある文脈、つまり“只听见低低的啜泣声。孙桂贞赶紧循着哭声看过去”（ただ小さく啜り泣く声が聞こえた。孫桂貞はすぐさまその声がする方へ眼をやった）である。この文脈から、“德子媳妇哭”という出来事が一定の間存在し続けていることが看取しえるため、“是德子媳妇在哭”における“在”は[複数の出来事存在]の意を表していると見なすことができる。

次は(25)の例を見られたい。

(25) 以琛醒来的时候就看到默笙坐在木地板上翻他以前的杂物，咳了一声提醒她。“何太太，你在侵犯我的个人隐私。”（顾漫《何以笙箫默》183頁）

ここでは“以琛醒来的时候就看到默笙坐在木地板上翻他以前的杂物”（以琛が目覚めた時、默笙が木の板の所に座り、彼の昔の物をあさっているのを目にした）という文脈を頼りに“你在侵犯我的个人隐私”（あなたは私のプライバシーを侵している）の“在”が[複数の出来事存在]の意を示していることを明確に理解することができる。なぜなら、この“以琛醒来的时候就看到默笙坐在木地板上翻他以前的杂物”という文脈における“翻”は[持続]の意味特徴を有しているが、この[持続]は他の成分

によって〔終息〕しないと見なしえるため、この“翻”という行為を行っている間は、“你侵犯我的个人隐私”が〔終息〕せず、存在し続けると考えられる。つまり、「默笙が彼の昔の物をあさっている」間は、「あなたは私のプライバシーを侵害する」が不変的に存在し続けているので、これを〔複数の出来事存在〕と捉えることができる。

また、“你在侵犯我的个人隐私”の持続動詞“侵犯”が他の成分によって〔終息〕せず、〔持続〕の意味特徴を保持しているのも、“在”が表す〔複数の出来事存在〕の意を理解するにあたって見逃してはならないことである。

従って、ここでの“你在侵犯我的个人隐私”における“在”の〔複数の出来事存在〕の意は、“以琛醒来的时候就看到默笙坐在木地板上翻他以前的杂物”という文脈と、“侵犯”が保持する〔持続〕の意味特徴によって明確に理解することができる、ということが分かった。

では、もう一つ、文脈に依拠して〔複数の出来事存在〕の意が判然とする例を挙げておこう。

(26) 即便有性伴侣的时候，我的心仍然闲得像挂在高压线上的风筝，一直在飘，东飘，西飘，南飘，北飘，永远是孤零零地在高空中飘，永远也飘不到一个温暖的怀抱里去。(艾米《梦里飘向你》62頁)

(たとえ伴侶がいる時でも、私の心は依然として寂しくまるで高圧線にかかった凧のようであった。ずっと漂っている。東、西、南、北、永遠にぼつりと高い空の中を漂っている。永遠に暖かな懐に着くことも出来ないのである。)

ここでは“一直在飘”について詳述する。“一直在飘”の“在”が〔複数の出来事存在〕の意を表すと理解しえるのは、主として、“飘”と“一直”が提供する〔持続性〕および“东飘，西飘，南飘，北飘，永远是孤零零地在高空中飘，永远也飘不到一个温暖的怀抱里去”という文脈が存在するからである。要するに，“一直在飘”における持続動詞の“飘”は、論理的な角度からいうと、限界なく〔持続〕する。また，“一直”（ずっと）が生起していることで“飘”の〔持続性〕がより明確となる。

そして，“一直在飘”の後には，“东飘，西飘，南飘，北飘，永远是孤零零地在高空中飘，永远也飘不到一个温暖的怀抱里去。”という表現があるので，“我的心飘”（私の心が漂っている）という出来事が複数存在していることを容易に理解することができる。

次章では様態表現によって〔複数の出来事存在〕の意を明確に理解できる例を挙げて考察する。

6 様態表現から〔複数の出来事存在〕を明確に判断できる例

本章では八つの例を用いる。最初に挙げる(27)の例では“飘飘地”の箇所に留意されたい。

(27) 孩子的尿布在锅灶旁被风吹着，飘飘地在浮游。(萧红《萧红全集》(上) 55頁)

(子供のおむつが調理台の傍らから風によって吹かれ、ひらひらと浮遊している。)

“飘飘地在浮游”の“在”が〔複数の出来事存在〕の意を示すと判断できるのは、まず、この文では、動詞の“浮游”が〔持続〕の意味特徴を有し、かつ、この〔持続〕を〔終息〕させられる成分がこの文の中に生起していないからである。つまり、“浮游”が限りなく〔持続〕することで、これを〔複数の出来事存在〕として捉える可能性が生まれるのである。

そして最も留意されたいのが、“飘飘地在浮游”に生起する“飘飘地”という様態表現である。つまり、“飘飘地”が生起することにより、“浮游”が〔持続〕していることが確実に保証されるため、〔複数の出来事存在〕の意として捉えることができる。

次の例では“静静地”がポイントとなる。

(28) 十年前村中的山，山下的小河，而今依旧似十年前。河水静静地流，山坡随着季节而更换衣裳；大片的村庄生死轮回着和十年前一样。(萧红《萧红全集》(上) 62頁)

上記の例における“河水静静地流”（川の水が静かに流れている）の“在”は何故〔複数の出来事の存在〕の意を示すのだろうか。これを明確に理解するには、動詞の“流”に内在する〔持続〕の意味特徴と“静静”が示す様態表現に注目する必要がある。要するに、“流”自体には、〔持続〕の意味特徴が備わっているが、“河水静静地流”の中には、この“流”の〔持続〕を〔終息〕させる成分が生起していない。よって、“河水流”という〔持続〕の出来事が複数存在していると見なしえる。

これに加えて、“河水静静地流”には“静静”が生起し、“河水流”という〔持続〕の出来事が「静か」という様態を有していることが分かるので、変化することのない“河水流”という出来事を、〔複数の出来事の存在〕と見なすことが可能となる。

今度は“这种事不是不断在发生吗”（この事は絶えず発生しないのではないか）の“不断”に留意しながら考察を進めることとなる。

(29) 善良の人彻底被击败，邪恶之徒没有受到惩处！琼瑶写此书时心情沉重。她说：“这种人世界上不是很多吗？这种事不是不断在发生吗？”（琼瑶《烟雨濛濛》（代序）6頁）

“这种事不是不断在发生吗”の“在”が〔複数の出来事の存在〕の意を示していることを明確にするには、第一に、動詞“发生”に内在する〔持続〕の意味特徴が重要な役割を果たしていることを述べる必要がある。即ち、“这种事不是不断在发生吗”には、この“发生”の〔持続〕を〔終息〕させる成分を見つけ出すことができないので、論理的な観点からいうと、“发生”は永遠に〔持続〕を保つこととなる。それが故、この文では〔複数の出来事の存在〕の意を表す“在”を用いることができたと考えられる。

第二としては、“不断”の生起に注目すべきである。要するに、“这种事不是不断在发生吗”には“不断”という様態表現が生起しているため、“这种事发生”という出来事が幾度となく起ると推論することができる。従って、“在”が示す〔複数の出来事の存在〕の意が明白となる。

さて、次の(30)では“在”の前に生起した“慢慢”が重要な成分である。

(30) 身后老羊不住哀叫，羊的胡子慢慢在摆动……（萧红《萧红全集》（上）93頁）

“羊的胡子慢慢在摆动”（羊の髭がゆっくりと動いている）という用例では、まず、“羊的胡子慢慢在摆动”における動詞の“摆动”が〔持続〕の意味特徴を有し、かつ、この“摆动”の〔持続〕が他の成分によって〔終息〕しないことにより、“在”の〔複数の出来事の存在〕の意の成立が可能になる、という点がポイントとなる。

そして、以上に加え、この文では、“慢慢”という様態表現が生起していることにより、“在”の〔複数の出来事の存在〕の意がより明瞭となる。つまり、ここでの“慢慢”は「ゆっくりと」という意味を示しているので、“摆动”という状態が一定の間続くことが保証される。故に、“羊的胡子摆动”という出来事を複数として捉えることができる。換言すると、“羊的胡子摆动”が「ゆっくりと」といった様態を以って〔持続〕する間は、この“羊的胡子摆动”が変化することなく存在している、ということである。故に、〔複数の出来事の存在〕の意を表現することができる。

以下で例示する“渐渐种子在滋生”（しだいに種が繁殖している）では、“渐渐”という様態表現が〔複数の出来事の存在〕の意を導くための鍵となる。

(31) 昏范的村庄埋着天然灾难的种子，渐渐种子在滋生。（萧红《萧红全集》（上）60頁）

“渐渐种子在滋生”の“在”が〔複数の出来事の存在〕の意を示すと見なすには以下の二点を指摘する必要がある。一つは、“渐渐种子在滋生”の中の“滋生”という持続動詞が〔終息〕することなく〔持続〕を保持するという点にある。これはつまり、“渐渐种子在滋生”には、“滋生”の〔持続〕に限界を与える成分が存在しないことを意味し、それが故、〔複数の出来事の存在〕の意を得ることができる。

いま一つは、“在”の前方に生起する“渐渐”という様態表現である。即ち、ここでの“渐渐”は

「しだいに」という意味を表すので、[持続]を保つ“种子滋生”という出来事が複数存在している、といった見解を下すことが許される。

次に挙げる“额上的青筋在不住地跳动”（額に浮き出る血管が止まることなく動いている）では、動詞の前に生起する“不住地”に注目されたい。

③2 爸从沙发里站起来，烟斗从他身上滑到地下。他紧紧地盯着我的脸，那对豹子一样的眼睛里燃烧着一股残忍的光芒，由于愤怒，他的脸可怕地歪曲着，额上的青筋在不住地跳动，他向我一步步走了过来。（琼瑶《烟雨濛濛》16頁）

“额上的青筋在不住地跳动”における“在”が[複数の出来事存在]の意を表していることを明白にさせるには、まず、動詞の“跳动”が[持続]の意味特徴を有し、かつ、“额上的青筋在不住地跳动”の中から、この“跳动”の[持続]を[終息]させる成分を見出すことができない、と見なすのがポイントとなる。

同時に、この文には“不住”という様態表現が生起しているため、“额上的青筋跳动”という出来事が[持続]していることがより明瞭となる。それが故、[持続]を保つ“额上的青筋在不住地跳动”という出来事を、[複数の出来事存在]として捉えることができる。

さて、以下の③3の“他握着酒杯的手在微微颤抖”では副詞の“在”が生起しているが、如何にして[複数の出来事存在]の意を明確に理解しえるだろうか。

③3 马林生眼含热泪皱着眉头像是在忍受身体内部突然袭来的不适，他握着酒杯的手在微微颤抖，这十余年前的誓言至今想来仍使他热血沸腾。（王朔《我是你爸爸》（王朔文集）161頁）

問題となる箇所は“他握着酒杯的手在微微颤抖”（彼の盃を握っている手が少し震えている）である。ここでの“在”が[複数の出来事存在]の意を示すと見なすには、まず、動詞“颤抖”の意味特徴に視点を向けることになる。即ち、この文では、“颤抖”自体に内在する[持続]の意味特徴が他の成分によって[終息]しないので、“在”の[複数の出来事存在]の意を表現することができた、と見なしえる。

次に注目すべき成分は“微微”という様態表現である。つまり、この“微微”が生起することによって“颤抖”という状態が[持続]していることが確実となり、変化することのない“他握着酒杯的手颤抖”という[持続]の出来事を[複数の出来事存在]として捉えることが可能となる。

最後の用例となる“老爸低着头在脱鞋”においては、動詞句の“低着头”が考察の要となる。

③4 老爸低着头在脱鞋，“嗯”了一声表示回答。大概力度不够，儿子没听见，又叫：“爸爸。”（艾米《小情敌》11頁）

“老爸低着头在脱鞋”（お父さんは頭を下げてままたま靴を脱いでいる）の“在”が[複数の出来事存在]の意を示しているのを明らかにするためには、まず、“脱”が[終息]せず、際限なく[持続]すると見なすことが重要である。つまりこれは“老爸低着头在脱鞋”において、“脱”の[持続]を終わらせる成分が生起していない、ということであり、これによって、“在”による[複数の出来事存在]の意の表現が許されるのである。

最も重要なのは、“老爸低着头在脱鞋”には、[持続]の意を明示する接尾辞の“着”が生起した“低着头”という様態表現が生起していることであり、この様態表現が続いている間は、不変的に“老爸脱鞋”という出来事が続いていると見なしえるが故、これを[複数の出来事存在]の意として理解することができる。

7 結びにかえて

本稿は青木（2015b）の論考を基に副詞“在”が生起する文を、

- ①複数の時間概念から〔複数の出来事存在〕を明確に判断できる例
- ②複数の場所概念から〔複数の出来事存在〕を明確に判断できる例
- ③複数の動作主から〔複数の出来事存在〕を明確に判断できる例
- ④複数の動作行為の対象から〔複数の出来事存在〕を明確に判断できる例
- ⑤他の文脈から〔複数の出来事存在〕を明確に判断できる例
- ⑥様態表現から〔複数の出来事存在〕を明確に判断できる例

の六つに分けて考察した。用例は全て小説から引用し、各例において生起する副詞“在”は、これまでの多くの研究者のように〔進行〕と解釈するよりも、〔複数の出来事存在〕と解す方がより妥当であることを証明した。

注

（1）副詞“都”については青木（2015a）を参照されたい。

参考文献

- 青木萌 2014. 「現代中国語における副詞“在”の意味と論理」, 神奈川大学大学院博士論文。
- 青木萌 2015a. 「現代中国語の副詞“都”の意味と論理」, 『言語と文化論集』第21号。神奈川大学大学院外国語学研究科。
- 青木萌 2015b. 「副詞“在”が表す〔進行〕について」, 『人文学研究所報』No. 54。神奈川大学人文学会研究所。
- 松村文芳 2010. 神奈川大学大学院中国語学特殊研究Ⅲa/b 講義。
- 松村文芳 2011. 神奈川大学大学院中国語学特殊研究Ⅲa/b 講義。
- 松村文芳 2012. 神奈川大学大学院中国語学特殊研究Ⅲa/b 講義。
- 松村文芳 2013. 神奈川大学大学院中国語学特殊研究Ⅲa/b 講義。
- 松村文芳 2014. 神奈川大学大学院中国語学特殊研究Ⅲa/b 講義。

用例の出典先

- 艾米 2010. 《梦里飘向你》。沈阳：万卷出版公司。
- 艾米 2011. 《小情敌》。南京：江苏文艺出版社。
- 顾漫 2011. 《何以笙箫默》。沈阳：沈阳出版社。
- 海岩 2013. 《玉观音》。合肥：安徽文艺出版社。
- 霍达 2005. 《红尘》。北京：北京十月文艺出版社。
- 芥末 2010. 《裸婚》。长春：北方妇女儿童出版社。
- 老舍 1998. 《四世同堂》。北京：人民文学出版社。
- 琼瑶 2012. 《烟雨濛濛》。北京：新星出版社。
- 王朔 2004. 《看上去很美》（王朔文集第2版）。昆明：云南人民出版社。
- 王朔 2004. 《王朔自选集》。昆明：云南人民出版社。
- 王朔 2004. 《我是你爸爸》（王朔文集第2版）。昆明：云南人民出版社。
- 王朔 2004. 《橡皮人》（王朔文集第2版）。昆明：云南人民出版社。
- 萧红 1998. 《萧红全集》（上）。佳木斯：黑龙江大学出版社。